

特定非営利活動法人まちの縁側育くみ隊

キーワード：まちの縁側 ネットワーク

活動地域：愛知県名古屋市東区

活動地域概要：

名古屋市16区の中で一番面積が小さく、中区と並び名古屋の都心を構成する中央部である。区内には尾張徳川家ゆかりの神社・仏閣も多く、徳川美術館や蓬左文庫には国宝、重要文化財など数々の名品が収蔵展示されている。また、市の町並み保存地区に指定されている「白壁・主税・榎木」地区は、江戸時代の武家屋敷の面影と戦前的高级住宅地の雰囲気を残しており、都心の雑踏を忘れさせる情緒が香る。団体の活動拠点である「まちの縁側MOMO」は、車の往来が激しい通りに面しているが、静かな佇まいの築50年の元歯科医院を再生・活用している。



団体・活動概要：

一宮市の市民参加型公共施設設計(2000年)、大正時代に建てられたお屋敷を守り育む「榎木館育くみ隊」(2002年)という2つの市民活動の流れが合流して、2003年に団体が発足しました。福祉、文化、環境、景観、建築、アートなどを縦割りにせず、様々な価値観や人の出会いを大切にしながら、まちとくらしを支援する様々な活動を展開してきました。これまでの主な活動では、市民の交流・制作活動、子どもまち表現学習、市民参加型公共施設設計、地域の元気を取り戻すまち育て学習のコーディネーター等を行ってきました。助成対象活動では、「まちの縁側」(内と外の境界の解けた、小規模多機能混在の、出会いと交流のある柔らかい場所)的施設を中部圏から抽出し、情報収集、データベース化を行いました。また、「まちの縁側」の認知と利用の拡大を目指して、「まちの縁側フォーラム」を開催し、まちの縁側のネットワークをつくりました。今後は、団体が主導して住民と行政の協働を進めながら、「まちの縁側」の普及に努めていこうとしています。



特定非営利活動法人まちの縁側育くみ隊

設立：2003年 メンバー総数：152名

代表者：延藤安弘

連絡担当者：村田尚生

連絡先：〒461-0002 愛知県名古屋市東区代官町1-5 まちの縁側MOMO

TEL：052-936-1717

FAX：052-936-1717

E-mail：info@engawa.ne.jp

ホームページ：http://www.engawa.ne.jp

1 団体の目的と経緯

「まちの縁側」とは、一人ひとりのキモチのいい居場所であり、立場の違う人々の意外性のあるつながりを生み、自己とよそ者が互いに生きがいを分かち合う創造的関係づくりを意味する。「まちの縁側育くみ隊」は、市民、行政、企業、NPOなどの間に、協働と敬愛のある相互支援社会を実現しようとしている。

2003年5月に認証されたNPO法人まちの縁側育くみ隊は、「発足期」から「展開期」への質的变化を目指し、右の5つの課題にチャレンジしている。

- 1 まちの縁側地域展開プロジェクト
- 2 縁側コーディネイトプロジェクト
- 3 縁側マインド学習プロジェクト
- 4 情報発信交流プロジェクト
- 5 調査研究プロジェクト

2 活動の内容

(1) まちの縁側の定義・条件

これまで、当NPOにおいて行ってきた、まちの縁側についての様々な調査研究をもとに、その中で得られたまちの縁側らしさをあらわすキーワードをKJ法を使って整理し、表1のようにまとめた。

表1 まちの縁側らしさ (KJ法による整理)

	居場所 semi-o- pen	つながり en-relatio- ns	生きがい self & others expressio		居場所 semi-op- en	つながり en-relatio- ns	生きがい self & others expressio
居心地の良さ				ご一緒のココロ			
時間の流れが違う				相互扶助の心がある			
柔らかく包み込まれる場がある				世話をする			
古い建物				手をかける			
ヒューマンスケール				思いやりがある			
心身ともに安らぐ				共に喜び合える			
心身ともに和む				笑顔がある			
癒される				共歓(Conviviality)			
気持ちが良い				互いを認め合える			
静かで落ち着く				自己と他者の融通無碍なやりとり			
犬や猫がいる				互いを誉め合う高め合う			
ベンチがある				気持ちを共有する			
五感に気持ち良い				創造性が発揮される			
風が通る				新しい出会いがある			
光が入る				いつも変化する			
サウンドスケープがある				何か生まれる偶発性			
自然の移ろいを感じられる				主体的に関われる			
四季の巡りを感じられる				自己表現の場			
自然を感じられる				一人ひとり自発的			
花がきれいに咲いている				文化をつくる			
柔らかなつながり				こうあれば(Wish Poem)			
誰でもいられる				本来の自分を取り戻す			
多世代交流				楽な気持ちでいられる			
子どもがいる				なるようになる(ケセラセラ)			
高齢者がいる				ぼちぼち			
障害者がいる				無理をしない			
柔らかくつながり合える場がある				素のままの自分ではいられる			
セミオープン				自分流が許される			
日常と非日常の間				普段着の世界			
ふらっと立ち寄る				本音が言える			
出会いがある				方言の世界			
縁側がある							
柔らかな関わりがある							
ごきげんよう							
気配が感じられる							
ほんやりと見えてくる							
暖かく迎え入れる							
美味しいご飯や酒がある							
食べたり飲んだり							
炊事場がある							
おもてなしの心がある							
あるじがいる							
ホスピタリティ							
集い合える場がある							
囲炉裏がある							
大きなテーブルがある							
人が集まる							

こうした、まちの縁側らしさをもつ施設を「まちの縁側」と定義し、中部圏（愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県、富山県、石川県、福井県、滋賀県）から、調査対象となる施設を選定するために、表2に示すチェックリストを作成した。すべての「まちの縁側」が、チェックリストの項目すべてに該当するというものではなく、より多くの項目に該当したものを「まちの縁側」として対象とする。

表2 まちの縁側チェックリスト

チェック項目		チェック項目		チェック項目			
機能	出会う	人と人をつなぐ場	縁側	人（スタッフ）	もてなしの心がある		
	おしゃべりする		居間		人と人をつなぐ		
	もてなす		食堂		人の良いところを見つける		
	世話する		広場		自由なふるまいを許容できる		
	楽しむ(笑う)		中庭		笑顔である		
	癒す		ピロティ		ポジティブである		
	作る		テーブル		その他		
	企画する		囲炉裏		人（利用者）	様々な人がいる	多世代の混ざり合い
	情報を提供する		カウンター				子どもがいる
	相談する		その他			高齢者がいる	
	話し合う(会議)	人と自然をつなぐ場	縁側	障害者がいる			
	ぼんやり居る(考える)		庭	その他			
	味わう(飲む・食べる)		ベンチ	互いを認め合える関係がある			
	見る(観る)		四阿	相互扶助の心がある			
	触れる	その他	主体的である	しかけ		その他	
	聞く(聴く)	人を迎え入れるデザイン	セミオープンな入口			みんなで飲んだり食べたり	
	本を読む	サイン・看板	サイン・看板			季節を感じるイベント	
	売り買いする	誘引する装飾・花	誘引する装飾・花		文化サークル活動		
	その他	その他	その他	居場所サービス(託児・託老)			
		古いものを生かしたデザイン		参加型ワークショップ			
	季節を感じるデザイン		おもてなしサービス				
	自然素材		その他				
	セルフビルド						
	その他						

尚、「まちの縁側」を整った定義的表現でいうと、「まちの縁側」とは、地域の小規模な民間資源を活用し(公共空間の私発活用を含む)多様な世代・属性の人々による出会い・交流などの場所を常設し、又

は、領域横断的な情報を定期的に発信し、一定のアルジ・スタッフによって運営されている場のことをいう。

(2) まちの縁側情報の収集

これまでの活動の中で得られた情報の整理
当NPOで行ってきた活動でこれまで関係の
あった団体・施設の中から、「まちの縁側」に該
当すると考えられる施設の抽出を行った。

人的ネットワークを使った情報収集

当NPOの会員ネットワークおよび、関係する
研究者、市民活動支援団体などへ呼びかけを行
い、情報の提供を受けた。

インターネットを使った情報収集

インターネットの検索エンジンを活用し、特に
重要と考えられるキーワードである、「居場所」
「たまり場」「子ども」「高齢者(またはお年寄
り)」「小規模」「多機能」などで検索を行い、施
設情報の収集を行った。

ここで得られた情報の中には、公設公営のもの
(一部市民参加)や、一時的・イベント的に開設され
たものなどが、含まれていた。我々が目指す理念で
ある、市民参画の理念から、民設民営および公設民
営のものを対象とし、また、常時サービス提供が行
われていることが重要と考え、常設(週3日以上オー
プン)のものを対象とした。その結果、表3に示す
ように、57件の情報を得ることができた。

また、その過程で、滋賀県や富山県においては県
レベルで「まちの縁側」の育成支援等の制度をもつ
ことが確認できた。こうした取組みは、まちの縁側
を広げていくうえで重要と考え、同時に調査するこ
ととした。

表3をみると地域的な偏りが大きなものとなっ
ている。その原因として、これまでの活動でネット
ワークを十分に築けていない地域は当方の情報収集
が弱いだけでなく、そうした地域では「まちの縁側」
づくりの積極的な活動も十分に行われていないと考
えられ、インターネット調査において中部圏以外で
の活動が多数みられたことを勘案するとインター
ネットなどでの情報発信も弱いと考えられる。

表3 まちの縁側情報の件数

地域	件数
愛知県	25
岐阜県	3
三重県	2
静岡県	0
長野県	0
富山県	16
石川県	0
福井県	0
滋賀県	11
合計	57

(3) まちの縁側調査およびデータベースの作成

当NPOがある愛知県を中心に、実地調査あるいは訪問の上調査協力依頼を行い、その他の地域については、電話および郵送による調査協力の依頼を行った。また、地域的に積極的な「まちの縁側」の育成支援が行われている滋賀県および富山県については、予算の範囲内で実地調査を行った。調査項目は表4の通り。

表4 調査項目

a.プロジェクト名	b.施設名	c.所在地	d.運営主体	e.連絡先(電話/FAX/メール/担当者)
f.施設面積(敷地/延べ床)	g.建物(階高/構造)	h.所有形態(賃貸の場合は賃料)		
i.築年	j.従前の利用状況	k.開始年月	l.現在の主な利用	m.周辺的环境
n.活動のきっかけ	o.スタッフ・主人はどのような人か	p.場所をどのようにつくったか		
q.活動内容	r.地域との連携	s.運営状況(収入/支出)	t.今後の課題	

また、情報交換を行い、今後の活動に生かしていくことを目的として「まちの縁側のお仲間」として相互承認していくことや、「まちの縁側フォーラム」への参加の依頼も同時に行った。

その結果、現在のところ調査票が返ってきたものおよび実地調査を行ったものを合わせて10(実地調査により作成分)+(MOMOに届いたもの)件となり、データベース化を行った。今後も調査票の記入依頼を再度行うなど、データベースの増強を図っていく予定であるが、それぞれの施設での活動が忙しいことなどを勘案すると、訪問して当方で調査票に記入することを検討して行く必要があると考えられる。

(4) まちの縁側フォーラムの開催および「まちの縁側お仲間手形」の発行

まちの縁側フォーラム2006の概要

- ・テーマ 地域で安心して暮らせるまちの縁側
- おでんのような小規模多機能の場所の育くみ -
- ・日時 2006年4月2日(日) 13:00 ~ 17:30
- ・場所 中部電力 東桜会館 多目的ホール・和室
会議室
- ・プログラム 講演「小規模多機能の場所の育くみ」
惣万佳代子氏(NPO法人このゆびとーまれ理事長)
テーマ別情報交流会「まちの縁側の自慢と悩み」
発表会・全体会
まちの縁側お仲間手形の発行
- ・参加費 NPO会員およびお仲間(調査協力団体)
800円、一般 1800円

参加者数	
会員・お仲間	33人
一般	50人

合計	88人

講演「小規模多機能の場所の育くみ」

惣万さんが富山市で看護婦仲間と始めたデイケアハウスこのゆびとーまれの活動について、どのように始め、現在にいたっているのか、その中で高齢者や障害者、子どもたちがどのように生き生きと生活しているのかが紹介された。このゆびとーまれの活動をみると、地域密着で、多様な人が交じり合い、利用者もスタッフも区別がない中で、互いに役割をもち、充実した日々を送り、笑顔で死んでいける、昔あった日本の地域の姿があった。また、富山型サービスといわれるいくつかの施設の紹介や、本来あるべき福祉について講演された。

講演のあと、会場からの質問では、富山型でない一般の福祉施設の問題点などがあきらかになった。



講演者の惣万さん

【アンケートから】

- ・福祉の活動については、まるで無知なのですが、昔あった「あたりまえ」をとりかえず、とても必要なことであると思います。まち自体についても多世代、多様が混在するそんなコミュニティになってほしい。
- ・人の相乗効果を感じました。
- ・惣万さんのかもし出される雰囲気魅きつけられました。「誰もが(いろんな人が)いて当たり前」のコミュニティをコプラティブ方式でつくろう!!と計画中だが、この考え方間違っていなかったんだ!!と感ずることができ嬉しかった。
- ・信念をもって日々すごすことの大切さを再び感じた。「感動のある毎日」を大事にしたい

テーマ別情報交流会「まちの縁側の自慢と悩み」

参加者およびスタッフがテーマ別(表5)にテーブルに分かれ、それぞれが感じている活動を行っていく上での「悩み」や「解決法」について話し合った。各テーブルにはお茶とお菓子が用意され、縁側的な和んだ雰囲気の中で語り合った。参加者から出された意見は、スタッフ(テーブルファシリテータ)によってカードで記録され、模造紙上で整理・分類した。

表5 テーマ一覧

- | |
|---|
| <p>テーマ1: 地域(地域や行政とどうつながる?)</p> <p>テーマ2: 人(スタッフをどうあつめる? うごかす?)</p> <p>テーマ3: 場所(人があつまる魅力的な場所って?)</p> <p>テーマ4: 活動(魅力的・個性的な活動やサービスは?)</p> <p>テーマ5: お金(どうあつめる? どうつかう?)</p> <p>テーマ6: 情報(Web やチラシってどうしてる?)</p> |
|---|



講演会の会場の様子

【アンケートから】

- ・分科会中身もさることながら進め方もお上手で参考になりました。
- ・いろんな活動の悩みや自慢を知ることができてよかった。悩みを課題ととらえて解決していけるだけの意気込みをもっていきたい。
- ・活動を地域社会の中で、地に足をつけたものにしていくには、ボランティアのみではだめで、やはり行政や地域にも働きかけ続けることが大切とわかる。「明日の100人を救うより、今日の1人を救いたい」という信念が一本貫かれていると感じました。
- ・遠方からの参加者が多くて驚きました。行政の方も勉強に来ていて心強く感じました。

発表会・全体会

交流会でまとめられた模造紙を使って、各テーブルごとに発表を行い、互いに情報共有を行った。各テーブルから出された情報に対し、他のテーブルに座っていた参加者からの意見や、惣万さんの意見を受け、最後に、まちの縁側育くみ隊代表の延藤安弘による、キーワードのまとめを行った。



テーブルでの話し合い

「まちの縁側お仲間手形」の発行

まちの縁側の仲間であることを互いに確認し、その証として「まちの縁側お仲間手形」の発行を行った。お仲間手形は、まちの縁側育くみ隊でダンボールや古布などの使われなくなった材料を使い手作りで作成した。



手作りの「まちの縁側お仲間手形」

尚、「まちの縁側お仲間」とは、地域での人間関係づくり、健康、福祉、子育て、住まい、環境、防災、防犯、アート、生涯学習、まちの再生、まち育てなどの諸領域において、相互支援社会の実現を目指して、まちの縁側活動の発展のための連帯のご縁づくりをいう。

3 活動の成果

(1) まちの縁側ネットワークの形成

今回の助成を通して、これまで繋がりの少なかった地域(特に富山県と滋賀県)と新たなネットワークが生まれた。これらの地域では、こちらが「名古屋でまちの縁側をやっています」と伝えるだけで、「うちらと一緒にや」などの答が返ってきたり、「まちの縁側」というキーワードが自然と受け入れられて



全体会の様子

いた。「まちの縁側」というキーワードを押し付けなくても、「まちの縁側」的な場所が生まれ、地域社会にとって必要なものであることが確認できた。こうした施設が「まちの縁側」のモデルケースとして、地域に多くの「まちの縁側」を生み出すきっかけをつくっていく上で重要な役割を果たしている。

また、これまで知らなかったタイプのまちの縁側との出会いがあった。このことは、今後まちの縁側を育てていくうえで新たな可能性を提示するものとして注目したい。

(2) 新たなまちの縁側誕生の可能性

まちの縁側フォーラムを開催する中で、まちの縁側をつくってみたいという参加者との出会いがあった。当NPOの実績として、これまでいくつかのまちの縁側をコーディネート、設計および運営援助を行ってきたが、今後、まちの縁側育きみ隊でフォローしていくことで新たなまちの縁側が生まれる可能性がある。

(3) 制度がまちの縁側を生み出す

今回の成果として、管見ながら地域的に多くのまちの縁側が生み出されている地域があった。これらの地域では、行政がまちの縁側の生まれやすい環境を整備していることがわかった。今後、さらに調査研究を進め、まちの縁側を生み出す制度についても政策提言をしていきたい。

4 活動資金

今回の活動資金は、参加者の参加費と助成金によるが、その内訳は約1:5である。

今後は、まちの縁側づくり支援を多様にひろげることにより、活動資金確保を見定めていきたい。

5 課題

今回の活動を通して、地域的な偏りが多く、まちの縁側を十分に広げることができていない現状を再確認した。まちの縁側というコンセプトをより一層広げていくためには、各地域でモデルケースとして「まちの縁側」をつくっていくことや、地域のニーズを形にしていくための支援策が望まれる。そのためにも、まちの縁側育きみ隊が行政と協働をしていく中で、民間資源を活用しながらまちの縁側を生み出して行く方策を模索していく必要性を感じている。例えば、今回の対象地域ではないが、東京都世田谷区では、地域共生の家づくり支援事業を立ち上げており、地域の専門家集団やNPOと連携しながら、まちの縁側を生み出している。このような形態の活動ができるように積極的に行政にアプローチをかけていきたい。

まちの縁側フォーラム2006

地域で 安心して暮らせる
まちの縁側

NPO法人まちの縁側育きみ隊が毎年行っている「まちの縁側フォーラム」です。
13年前、全国初の小規模多機能型居宅介護施設「まちの縁側」を開業。民間企業と連携し、まちの縁側を育てていくことにより、「まちの縁側」のモデルケースとして、各地域に広げたい。

まちの縁側育きみ隊
みんなが暮らしている
まちの縁側
エピソード

講演「小規模多機能の場所の育きみ」
おととし、まよこ
惣万 佳代子さん（NPO法人こどもひとまわり理事長）

交流会「まちの縁側の自慢と悩み」
「おでんが大好き、いらないものまでいろいろある」まちの縁側をもちだして

4/2(日) 13:00-17:00
東桜会館 5階・多目的ホール

主催（お問い合わせ・お申し込み）
NPO法人 まちの縁側育きみ隊
名古屋東桜会館5階555の縁側育きみ隊
TEL & FAX : 052-536-1717
E-mail : info@egawa-npo.jp

6 今後の展望

今後の抱負としては、市民、行政、企業、NPOなどの間にオープンな閉域を持たない縁側のような関係づくりのミッション(公益性) 活動過程に創造的緊張感はらむテンション(創造性) マネジメントにおける経営的ソロバン(収益性) のミッション・テンション・ソロバンが並び立つバランスのよいNew Professional OrganizationとしてのNPOを目指したい。

加えて、「まちの縁側のあるいえ」づくり支援の活動をNPOと住民と行政の協働のもとにすすめていき、新しい時代の新しい公共施設整備の課題・手法として、地域社会の中に多様にひろげていきたい。

① 延藤安弘氏
 ② 富山大学
 ③ 友會南信州中(延藤安弘氏) 2006年
 ④ 延藤安弘氏と本人が
 ⑤ 扱. 1000円と1000円
 ⑥ よい生活と、活動の
 ⑦ 交流を「仲間」
 ⑧ 抱きかかると、延藤安弘氏
 ⑨ 国. 1000円と1000円
 ⑩ 回りまわって、人・金・
 ⑪ トコに、延藤安弘氏と
 ⑫ 延藤安弘氏と

「まちの縁側フォーラム2006」において
 延藤安弘氏による全体のまとめ(ユーモアを仲間と)